

幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児 第2回）

受講者数 79名

日時 令和4年10月19日（水） 14:30～16:30

場所 ギャラクシティふぉーらむ（多目的室1.2）

講師 相模女子大学 学芸学部 子ども教育学科 准教授 金元 あゆみ 氏

【内 容】～子どもの発達と保育者の関わりについて～

子どもの姿を映したビデオから、0歳児の発達や遊び、そこに関わる保育者のあり方について学びを深めます。0歳児の遊びは大人（保育者）から見ると単調な遊びの繰り返しのように見えます。しかし、一人一人をよく見ていくと獲得したすべての力を使って興味の対象を知ろうとしています。保育者は、子どもの世界を尊重し子どもの視線の先にあるものを横並びのまなざしで見えていくことの大切さを学びます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・同じ空間や活動の中でも、子どもたち一人一人楽しさを感じるものは違う。心が動く瞬間を見守ることが大切。一人一人がどんなものに出会い、興味を感じているのかを考え声掛けをするのか、見守るのかを見極めて関わる。
- ・大人が分からない面白さでも、子どもにはいろいろな世界が見えている。子どもの視線の先にあるものについて、言葉にしてみたり動作を真似してみたりして発見を一緒に味わっていく。そこに立ち上がる喜びを見つけ、保護者にもしっかりと伝えていく。
- ・乳児期は特に心地よさや保育者との信頼関係、子どもの気持ちに共感することが大切だと学んだ。また、心が動く遊びや興味が広がり学びに繋がるような環境を整えていくことも必要だと感じた。子どもの願いをしっかりと理解した上で保育実践に活かせるようにしていきたい。
- ・子どもたちの世界を知ろうとするまなざしで関わる。その行為の原動力である心を見ること。何を味わい面白がっているのか、子どもの側に立ち上がる喜びを見取る。子どもたちの世界を保育者が読み取り、代弁し伝えていくことも大切だと学んだ。保護者への伝え方を考えていきたい。